

●●蓄光を利用した防災教育のご提案●●



●●●防災教育の重要性●●●

2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波による死者・行方不明者が1000人を超える釜石で、小中学生は2921人が津波から逃れました。99.8%の生存率は、「釜石の奇跡」と言われております。

何故、このようなことが可能であったのか？

これは普段からの**子供たちへの「防災教育」**の結果です。
現在、子供達に対する防災教育の重要性が改めて見直しされております。

防災教育の取り組み

子供達の頃から防災教育を徹底して覚え込ませる



10年後に大人になり防災意識が地域文化として根付く



親になり今度は自分が子供に防災教育を徹底させる

●●●防災教育の現状●●●

教育現場での防災教育の現状

- ・多くの小中学校では、避難訓練だけの学校がほとんど。
- ・防災教育を早速取り組みたいが、何の手立てもないと着手しづらい
- ・災害の恐ろしさのみを伝えたり、主体性のないまま災害知識を伝えたりする「効果的でない防災教育」が行われることが多い。

これからの防災教育は、

- ・ 「与える」から「引き出す」防災教育
- ・ 「やらせる」から「自らやる」防災教育

上記のような発想の転換が必要となっております。
この活動が結果的に、子供が学ぶ姿を見て、大人も一緒になって学ぶことができ、学校や地域へ防災教育が普及するのです。

●●● 防災ワークショップのプログラムの提案 ●●●

① 水に絵を描く

不可能のようなことを実際にワークショップ活動に取り入れて楽しく創造性を学びます。



② 蓄光石に笑顔を描く

笑顔に託された被災地からのメッセージとして今この時も被災地のどこかで大人たちに勇気と希望を与え続けている子供たちの笑顔。それはとても純粋な未来への希望であり、1個の笑顔に込めた思いを膨らませて震災の風化防止や防災意識の向上を目指し、東北の教訓として未来へと語り継がれることを目的とします。



③ 蓄光素材の体験

光を吸収し、暗いところで光る蓄光素材の体験。この目的は命を守る防災意識改革として夜に突然電気が消えて暗くなった場合を想定し、どのような用途で防災に役立つかをみんなで検討する体験。

又、家に帰って家族に子供たちが作った蓄光シートを使ってもらうことにより家族との防災のコミュニケーションのツールにもなります。

